

ヒューマンタッチ総研独自分析 建設業関連 6 業種における 2021年3月期第3四半期決算から見る市場動向

人材紹介事業を行うヒューマンタッチ株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：高本和幸、以下「ヒューマンタッチ」）が運営するヒューマンタッチ総研は、総合工事業（ゼネコン）、土木工事業、電気設備工事業、管工事業、プラント・エンジニアリング業、住宅・不動産業の6業種に分けて、2021年3月期第3四半期決算から見る市場動向をまとめました。

【本件のポイント】

- ・6業種別主要上場企業各10社の2021年3月期第3四半期決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・土木工事業と電気設備工事業は堅調だが、ゼネコン、管工事業、プラント・エンジニアリング業では厳しい決算
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響は各社の予想の範囲内

<総合工事業>

■9社が減収、8社が減収減益、10社合計では純利益が約2割減となる

売上高は9社が前年同四半期を下回り、うち8社が減収減益であり、増益となったのは鹿島建設1社のみとなっています（図表①）。10社合計を見ると、売上高は前年同四半期比▲10.8%（第2四半期は▲11.9%）、純利益は同▲19.1%（同▲21.8%）となっており、第2四半期と比べると若干改善していますが依然として厳しい決算が続いています。

2021年3月期の通期業績予想については前田建設工業が売上高、純利益ともに上方修正している以外に変更はありません。

【図表① 総合工事業主要10社の2021年3月期第3四半期決算（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
鹿島建設	1,388,923	-3.4%	100,404	18.4%	111,472	18.5%	76,497	10.4%	減収増益
大林組	1,276,904	-14.8%	86,850	-26.7%	91,082	-27.5%	71,161	-22.5%	減収減益
清水建設	1,030,579	-16.8%	70,619	-27.2%	75,169	-27.4%	55,217	-25.2%	減収減益
大成建設	975,095	-17.0%	82,244	-11.6%	86,852	-10.7%	57,157	-16.8%	減収減益
長谷工コーポレーション	553,667	-9.4%	46,628	-23.7%	45,737	-25.4%	31,107	-26.4%	減収減益
前田建設工業	470,957	33.6%	29,053	13.1%	30,549	2.3%	14,509	-37.7%	増収減益
戸田建設	353,101	-4.5%	14,421	-38.7%	16,834	-35.4%	11,244	-40.0%	減収減益
五洋建設	342,280	-21.6%	22,092	-14.4%	21,796	-16.0%	15,008	-16.0%	減収減益
三井住友建設	299,458	-10.0%	12,851	-29.3%	11,036	-37.3%	6,821	-41.2%	減収減益
フジタ(単体)	268,354	-23.3%	7,096	-20.4%	5,629	-35.8%	3,762	-36.0%	減収減益
合計	6,959,318	-10.8%	472,258	-15.1%	496,156	-15.9%	342,483	-19.1%	減収減益

出所：各社の2021年3月期第3四半期決算短信より作成

*フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

<土木工事業>

■ 3社が増収増益、主要各社合計では純利益が前年同四半期比 10%増となる

NIPPO、日本道路、ピーエス三菱の3社が増収増益となっています（図表②）。9社合計（*大豊建設は本レポート執筆時点で第3四半期の決算が未発表）を見ると、売上高は前年同四半期比▲0.4%（第2四半期は▲1.9%）、純利益が同10%増（同▲1.0%）と増益に転じました。売上高についてもわずかな減少であり、業界全体として堅調な決算だと言えます。

2021年3月期の通期業績予想についても前田道路、東洋建設、日本道路、川田テクノロジーズ、ピーエス三菱の5社は純利益を上方修正しています。

【図表② 土木工事業主要10社の2021年3月期第3四半期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
NIPPO	304,715	2.9%	32,351	46.3%	33,539	39.3%	21,837	49.8%	増収増益
前田道路	166,812	-0.8%	15,766	21.6%	16,178	19.9%	12,766	-16.6%	減収減益
東亜建設工業	132,909	-0.6%	6,738	6.3%	7,034	12.2%	4,460	11.0%	減収増益
東洋建設	123,756	-7.0%	8,922	18.0%	8,623	15.4%	5,698	18.6%	減収増益
大豊建設	未発表								
日本道路	114,692	8.3%	8,059	74.7%	8,498	67.4%	5,672	13.2%	増収増益
飛鳥建設	87,293	-11.3%	2,673	-47.4%	2,390	-50.3%	1,600	-50.2%	減収減益
川田テクノロジーズ	85,880	-6.5%	347	-88.9%	2,350	-46.9%	2,169	-38.4%	減収減益
ピーエス三菱	83,729	12.0%	6,639	72.0%	6,660	73.4%	4,470	66.9%	増収増益
東亜道路工業	65,254	-2.9%	3,040	89.6%	3,119	82.4%	1,954	-1.8%	減収減益
合計	1,165,040	-0.4%	84,535	25.7%	88,391	24.2%	60,626	10.0%	減収増益

出所：各社の2021年3月期第3四半期決算短信より作成

*大豊建設は調査時点で第3四半期の決算が未発表

<電気設備工事業>

■ 10社合計では純利益が前年同四半期比 7.7%増となり利益面での改善が進む

売上高は7社が前年同四半期を下回ったが減収減益は3社のみであり、利益面では改善されています（図表③）。10社合計でも、売上高は前年同四半期比▲2.2%（第2四半期は▲3.2%）でしたが、純利益は同7.7%増（同▲5.0%）と増益に転じており、収益性の改善が進んでいます。

2021年3月期の通期業績予想についても、きんでん、協和エクシオ、中電工が売上、純利益ともに上方修正しており、改善傾向であることがわかります。

【図表③ 電気設備工事業主要10社の2021年3月期第3四半期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
関電工	389,903	-8.9%	20,304	-7.2%	21,231	-6.5%	13,551	-6.3%	減収減益
コムシスホールディングス	370,817	-1.1%	22,624	6.9%	23,832	7.3%	16,786	16.1%	減収増益
きんでん	370,664	-3.4%	24,713	-0.5%	25,883	-3.4%	19,340	1.9%	減収増益
協和エクシオ	348,123	4.3%	18,798	7.0%	20,213	12.6%	12,575	16.0%	増収増益
九電工	266,597	-4.7%	18,898	0.7%	20,940	-0.6%	13,845	-3.3%	減収減益
トーエネック	153,989	-1.4%	10,408	30.1%	9,928	34.8%	6,626	12.7%	減収増益
ユアテック	132,056	-4.2%	2,382	36.3%	2,715	21.5%	1,538	53.7%	減収増益
中電工	124,834	12.1%	5,791	59.1%	7,621	38.3%	5,455	150.7%	増収増益
住友電設	107,740	-9.3%	7,397	-20.1%	7,912	-19.0%	5,129	-19.4%	減収減益
日本電設工業	97,163	5.8%	5,821	16.3%	6,690	13.9%	4,137	21.3%	増収増益
合計	2,361,886	-2.2%	137,136	4.0%	146,965	3.9%	98,982	7.7%	減収増益

出所：各社の2021年3月期第3四半期決算短信より作成

<管工事業>

■9社が減収、6社が減収減益、やや改善傾向ではあるが依然として厳しい決算が続く

売上高は9社が前年同四半期を下回り、6社が減収減益となっています（図表④）。10社合計を見ると、売上高は前年同四半期比▲13.6%（第2四半期は▲16.2%）、純利益が同▲28.5%（同▲35.6%）となっており、第3四半期に入って売上、利益ともに若干の改善が見られますが、依然として厳しい決算結果が続いています。

2021年3月期の通期業績予想は朝日工業社が利益を上方修正しましたが、高砂熱学工業、三機工業、テクノ菱和の3社が売上、利益ともに下方修正しており、厳しい経営環境に直面していることがうかがわれます。

【図表④ 管工事業主要10社の2021年3月期第3四半期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
高砂熱学工業	189,032	-15.9%	6,432	-45.6%	7,299	-44.3%	4,810	-49.0%	減収減益
大気社	135,592	-14.6%	5,806	-46.5%	6,195	-44.9%	4,585	-40.9%	減収減益
三機工業	129,215	-10.1%	2,856	-48.9%	3,370	-45.2%	2,469	-42.6%	減収減益
ダイダン	111,099	-9.0%	7,205	2.0%	7,593	3.6%	5,190	4.5%	減収増益
新日本空調	72,085	-10.8%	3,479	79.8%	3,879	64.9%	2,705	59.4%	減収増益
日比谷総合設備	48,955	4.1%	1,976	-	2,535	361.8%	1,694	182.5%	増収増益
朝日工業社	47,133	-36.0%	1,036	-66.3%	1,252	-61.8%	977	-50.0%	減収減益
テクノ菱和	39,465	-10.8%	810	-68.9%	1,154	-59.4%	614	-67.3%	減収減益
大成温調	34,147	-3.9%	421	-31.5%	560	-26.0%	659	47.8%	減収増益
ヤマト	29,760	-21.7%	1,832	-38.0%	2,079	-33.7%	1,426	-32.0%	減収減益
合計	836,483	-13.6%	31,853	-31.6%	35,916	-29.2%	25,129	-28.5%	減収減益

出所：各社の2021年3月期第3四半期決算短信より作成

<プラント・エンジニアリング業>

■5社が減益、1社が赤字であり、利益面で厳しい決算結果となる

売上高は5社が前年同四半期を下回り、うち3社が減収減益となっています（図表⑤）。純利益を見ると5社が減益、1社が赤字となっていることから、利益面で厳しい決算になっていることがわかります。

10社合計の売上高は前年同四半期比▲4.2%（第2四半期は▲3.8%）、純利益は同▲18.6%（同▲17.3%）となっており、売上高、利益ともに第2四半期よりも少し悪化しています。

2021年3月期の通期業績予想は、太平電業と田辺工業が売上高、純利益ともに上方修正、富士古川E&Cが純利益を上方修正しています。

【図表⑤ プラント・エンジニアリング業主要10社の2021年3月期第3四半期（連結）の実績】

企業名	2021年3月期第3四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
日揮	304,928	-10.9%	17,317	28.7%	18,520	0.8%	6,995	46.2%	減収増益
千代田化工建設	242,976	-10.9%	6,064	-75.3%	6,208	-70.3%	6,467	-61.7%	減収減益
栗田工業	198,007	0.5%	24,213	-3.4%	15,638	-8.3%	14,925	-12.0%	増収減益
東洋エンジニアリング	133,088	-19.4%	2,109	14.0%	1,963	53.5%	882	-48.9%	減収減益
タクマ	105,584	16.2%	8,359	36.9%	8,954	34.1%	6,635	28.8%	増収増益
レイズネクスト	100,057	16.7%	7,432	5.8%	7,640	5.2%	5,002	-51.5%	増収減益
太平電業	95,251	17.4%	8,064	57.1%	8,464	57.5%	5,546	62.4%	増収増益
メタウォーター	58,497	3.5%	-1,086	-	-1,235	-	-1,077	-	増収赤字幅縮小
富士古河E&C	49,755	-7.5%	3,050	10.7%	3,101	15.0%	2,066	8.8%	減収増益
田辺工業	26,680	-0.1%	1,960	3.1%	2,036	4.7%	1,303	-4.3%	減収減益
合計	1,314,823	-4.2%	77,482	-8.1%	71,289	-8.7%	48,744	-18.6%	減収減益

出所：各社の2021年3月期第3四半期決算短信より作成

<住宅・不動産業>

■ 10 社合計では第 2 四半期よりも売上高、純利益ともに改善

売上高は 6 社が前年同四半期を下回り、うち 4 社が減収減益となっています（図表⑥）。10 社合計の売上高は前年同四半期比▲0.3%（第 2 四半期は▲6.5%）、純利益は同▲4.1%（同▲26.5%）となっており、第 2 四半期よりも売上高、純利益ともに改善しています。

2021 年 3 月期の通期業績予想は、三菱地所とタカラレーベンが売上高、純利益ともに上方修正、積水化学工業が売上高を上方修正、野村不動産ホールディングスが売上高を下方修正、純利益を上方修正しています。

【図表⑥】住宅・不動産業主要 10 社の 2021 年 3 月期第 3 四半期（連結）の実績

企業名	2021年3月期第3四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
大和ハウス工業	3,004,181	-5.0%	251,082	-13.3%	245,264	-14.9%	155,272	-20.7%	減収減益
三井不動産	1,468,035	13.3%	164,444	-3.5%	143,268	-8.5%	98,886	-3.3%	増収減益
大東建託	1,109,234	-3.2%	77,824	-12.1%	81,052	-12.2%	55,927	-11.3%	減収減益
飯田グループホールディングス	1,101,832	13.7%	86,758	32.9%	84,861	34.5%	57,471	34.1%	増収増益
三菱地所	777,883	-6.0%	139,477	-6.7%	139,465	3.9%	88,782	2.5%	減収増益
積水化学工業	756,422	-8.1%	39,876	-31.5%	33,830	-43.2%	20,656	-48.5%	減収減益
住友不動産	705,852	-8.1%	179,425	-2.6%	174,912	-0.5%	128,352	13.7%	減収増益
野村不動産ホールディングス	373,361	12.6%	47,515	68.6%	40,050	82.6%	25,962	77.1%	増収増益
スターツコーポレーション	143,248	2.1%	15,463	-0.2%	15,507	-0.8%	10,464	-0.5%	増収減益
タカラレーベン	88,271	-8.9%	5,337	-13.6%	4,823	-14.9%	3,137	-18.6%	減収減益
合計	9,528,319	-0.3%	1,007,201	-4.6%	963,032	-4.9%	644,909	-4.1%	減収減益

出所：各社の 2021 年 3 月期第 3 四半期決算短信より作成

■ ヒューマンタッチ総研所長・高本和幸（ヒューマンタッチ代表取締役）のコメント

建設業関連 6 業種の各主要 10 社合計の売上高と純利益の前年同四半期比増減率を見ると、土木工事業と電気設備工事業の純利益が前年同四半期を上回り堅調な決算でしたが、ゼネコン、管工事業、プラント・エンジニアリング業では純利益が大幅に減少しており厳しい経営状況であることがわかります（図表⑦）。

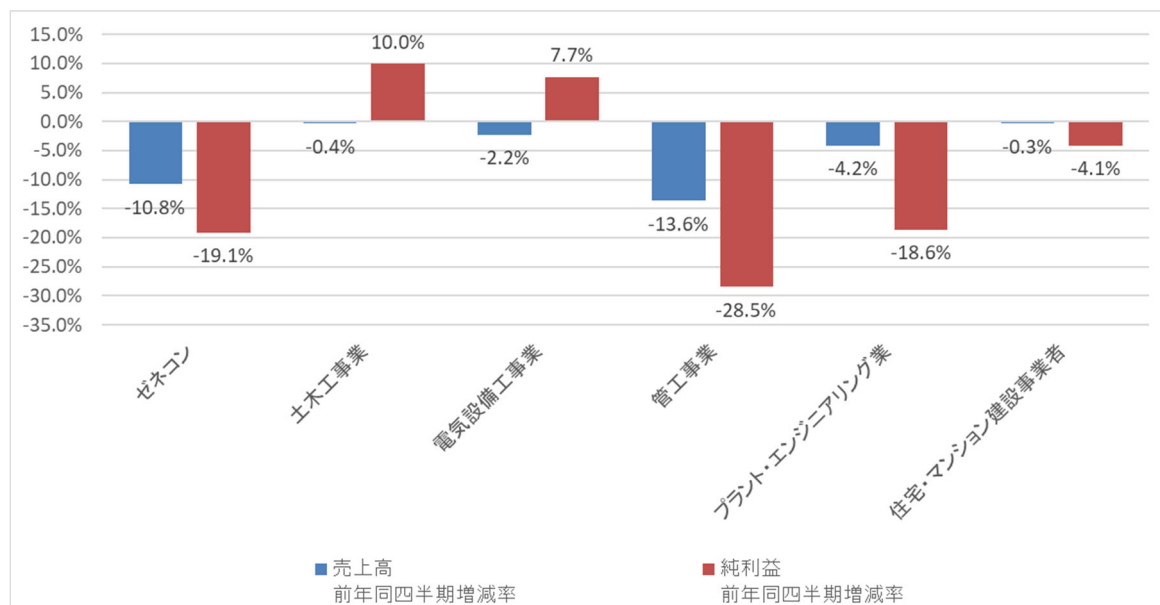
売上高は 6 業種すべてで前年同四半期割れでしたが、住宅・マンション建設業は▲0.3%、土木工事業は▲0.4%と、ほぼ前年並みをキープしています。

また、全体で計 16 社が純利益を上方修正していることから見ても、新型コロナウイルス感染症拡大が建設業の経営に与えた影響は、各社の予想を上回るものではなかったと考えられます。

ただし、新型コロナウイルス感染症拡大が日本経済全体に与えた影響は大きく、今後の民間の建設投資の回復には不透明な要素も多く見られることから、2021 年 3 月期決算が予想通りで着地できるのか、来期（2022 年 3 月期）についてはどのような状況になるのかについて引き続き注視していきたいと思っております。



【図表⑦ 建設業関連 6 業種の各主要 10 社合計の売上高・純利益の対前年同四半期増減率】



■ヒューマンタッチ総研とは

「ヒューマンタッチ総研」は、ヒューマンタッチ株式会社が運営する、建設業界に関する各種データを基に将来の姿を予測する研究所です。

「ヒューマンタッチ総研」は、建設業界の人材動向を中心に市場動向、未来予測などの調査・分析を行い、独自調査レポートや定期的なマンスリーレポート、そして建設 ICT の最新ソリューションを紹介する各種セミナーの企画・運営など、建設業界に関わる様々な情報発信をしています。

建設業界の人材不足を改善するために、ICT 導入による「生産性向上」や魅力ある業界への転換としての「働き方改革」を推奨し、建設業界に関わる各種データや業界を超えた様々な情報の調査・分析から、建設業界の明るい未来につながる発信をしています。

●ヒューマンタッチ総研 WEB サイト：<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

■ヒューマングループについて

ヒューマングループは、教育事業を中核に、人材、介護、保育、美容、スポーツ、IT と多岐にわたる事業を展開しています。1985 年の創業以来「為世為人（いせいいじん）」を経営理念に掲げ、教育を中心とする各事業を通じて、労働力不足、高齢化社会、待機児童問題など、時代とともに変化するさまざまな社会課題の解決に取り組み、独自のビジネスモデルを展開してきました。

人と社会に向き合い続けてきたヒューマングループは、いま世界全体で達成すべき目標として掲げられた SDGs（持続可能な開発目標）にも積極的に取り組んでいきます。SDGs への貢献を通じて、「為世為人」の実現を加速させ、より良い社会づくりに貢献していきます。

●ヒューマンホールディングス WEB サイト：<https://www.athuman.com/>



会社概要

ヒューマンタッチ株式会社

- 代表者：代表取締役 高本 和幸
- 所在地：東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1F
- 資本金：1 億円
- コーポレートサイト URL：<https://human-touch.jp/>
- ヒューマンタッチ総研サイト URL：<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

<このレポートに関するお問い合わせ>

ヒューマンタッチ株式会社 ヒューマンタッチ総研担当

TEL : 03-6872-1027 E-mail : htsouken@athuman.com

<ヒューマングループに関するお問い合わせ>

ヒューマングループ 広報担当 原、安永

E-mail : kouhou@athuman.com